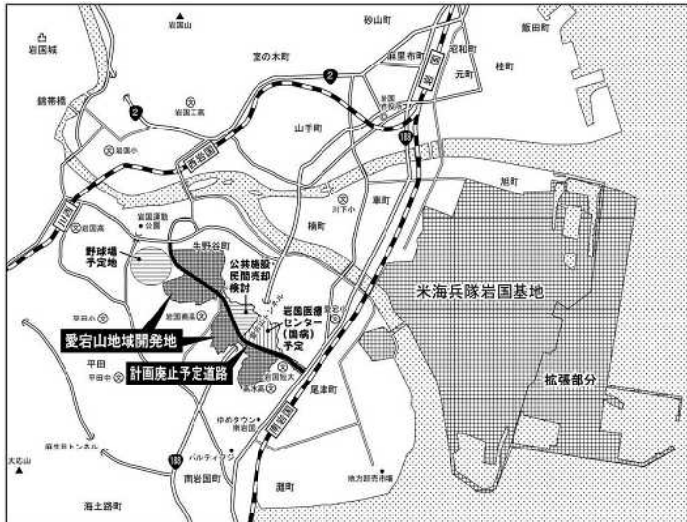


愛宕山を考える



かつて愛宕山は、野鳥の群れ飛ぶ鎮守の森が広がり、岩国市民の憩いの場所であった。それが今では、岩肌むき出しの荒地に変わり、放置されたままになっている。

10年前に、「滑走路の沖合い移設」のための埋め立て土砂を確保し、同時に新しい宅地を作るという一石二鳥の目的のために、新住宅開発法に基づく愛宕山開発事業がスタートした。しかし、経済面の評価が甘かったことは否めず、3年後には、県議会で、「人口減少傾向にある岩国に、愛宕山地域開発が本当に必要なのか。」との質問が投げかけられている。二井知事はこの質問に、「国家プロジェクトに関係する重要な事業なので、中止や見直しは考えていない。」と答弁している。新住宅開発法の目的は、公的資金を活用して新しい住宅用地を提供することであり、過去の事例を調べてみると、赤字覚悟で事業が実施され、完結されているのが常である。したがって、県知事がこのような答弁をしたことは別に

おかしいことではない。ただし、赤字が生じた場合、それを負担する覚悟があつての発言でなければならないが……。

埋立て土砂の搬出は、19年3月まで続き、250億余の借金を残して完了した。その時点で借金が残るのは、素人がみても、至極当然である。新しく生まれた造成地を販売することによって、その借金を返済する計画になっていたからである。岩国市の中心に出現した一等級の造成地を活用して、如何に将来構想を描くかが問われるはずであるのに、県は財政難を理由に、突然愛宕山開発事業の中止を打ち出し、防衛省へ売却することによって損失を解消すると言い出した。確かに、計画通りに宅地の販売が進まないのも事実であろう。しかし、新しい土地は、地域活性化の核になりうる貴重な資産であり、防衛省に無条件で売り渡すのではなく、将来の岩国市民のために活用すべきではなからうか。

こうした疑問に答える情報が最近岩国市の内部から流出し、中国新聞などマスコミで大々的に報じられた。20年4月に、防衛省、県の要請に応じて開催された福田市長を筆頭とする幹部職員による協議報告書がそれである。59機もの艦載機が岩国に移駐してくるとなると、家族を含めて4000名を超す米兵の居住地を提供する必要があり、愛宕山が格好の候補地となる。防衛省は艦載機の岩国移駐を達成させるためには、どうしても欲しい。この協議報告書には、「県・市が買取を要請している4分の3では足りない。野球場建設予定地も欲しい。」との難題を持ちかけられて、対応に苦慮する市当局の姿が生々しい会話で描き出されている。このように、防衛省からいろいろな要求が突きつけられているのに、福田市長は、「国からの正式な要請はない。」の一点張りで押し通そうとしている。20年7月、不信感を強めた周辺地域住民により「愛宕山を守る会」が結成され、それを支援するため我々も含む広範な市民グループが結集し「愛宕山を守る市民連絡協議会」が設立された。以来、県や市への要請、1,600通余りの意見書の提出、チラシの配布などの精力的な活動が行われている。現在、県と市により、跡地の利用計画も何も示さないままに愛宕山開発事業の廃止手続きが強引に進められているが、今後状況により、住民監査請求、最終的には裁判で争うことも必要となろう。

振り返ってみると、滑走路の沖合い移設計画そのものが、米軍再編の伏線になっていたのではという疑問が湧いてくる。防衛省は、市民を巧妙にだましながら、空母艦載機の移駐を実現する環境を着々と整えてきたように思う。地方の自立が叫ばれている今日、こうした国の横暴なやり方に異を唱え、子や孫に住みよい岩国を残すために一丸となって「愛宕山に米軍住宅はいらぬ！」の運動を展開しようではないか。草の根ネットワーク岩国を設立した意図は、まさにここにあると思う。





今 時代は動く！



「アメリカの強さは、軍事力でも経済力でもない。民主主義と自由である」次期アメリカ大統領オバマの言葉である。堂々と理念を語り、喝采を浴びる。一方、麻生総理が景気対策として大見得を切った「定額給付金」。選挙目当てのバラマキであることは誰もが知っており、決してだまされないであろう。市民とともに言いたい。「見せかけの施しなど、受けません！」

消えた年金や食品偽装など国中に偽りが溢れており、岩国も例外ではない。容認が条件である再編交付金をもらいながら、米軍再編は容認していないと言う。すでに2年前に防衛省から山口県に「愛宕山を米軍住宅用地として買いたい」という打診があり、渡りに船と飛び乗ってしまった県は、以来、強引に防衛省に売り飛ばす算段をしている。市の内部文書で、民間空港と米軍住宅の裏取引の実態まで明らかになっている。

しかしいまだに「国に買取りの要望をしているが、まだ返事がない。米軍住宅の話もない」とごまかしの答弁を繰り返している。米軍再編や愛宕山の処理は、難しい判断を迫られる問題であり、いろいろな考え方があって当然である。しかし、岩国の将来を左右する重大な課題であり、方向性を決める際には、すべての事実関係を明らかにして議会や市民の意見も十分に聴くべきである。都合が悪いからといって、市民、県民をごまかすなど、政治のあり方が根本的に間違っている。



今、時代は大きく動いている。国の財政が破綻し、そのつけが国民に返ってきている。さらに、百年に一度と言われる世界恐慌が押し寄せてきている。オバマは「対立から対話へ」と動き、イラクから撤退する。アメリカの支配も終わり、軍事よりも経済や生活が優先される時代になろうとしている。日本でも政権はすでに末期症状を呈しており、総選挙を通じて大きな変化が起こることは確実。そして、医療や福祉、雇用などの不安を取り除き、地球温暖化対策、農林水産業や地方の重視など、大胆な政策転換を行う必要がある。

あらゆる産業が急速に冷え込んでおり、人員整理のニュースも後を絶たない。もはや軍事に余分なお金を使う余裕はなく、米軍再編も大きな見直しを迫られることになる。数百億円もかけて愛宕山を買い米軍住宅を建設するなど、まさにKY、時代錯誤であり、とても国民の合意を得られるものではない。少しでもお金があれば、まず困っている国民のために使うべき。この機会をとらえて、市民の心「民意」を、積極的に届け、日本やアメリカを動かさなくてはなりませんか。

政治を知りたいという人々の思いは強く、草莽塾第二期を市内と宇部市で開催した。子どもにこそ聞かせたいと親子で参加した人も。

会員の声

『ボローニャ紀行』（井上ひさし著）のすすめ

面白かったり、感動した本に出会うと、無性に人にお薦めするのが私の悪い癖です。

ボローニャと聞いて、中田英寿選手が所属していたサッカークラブ“ボローニャ”の名前を思い出される方がいるかもしれません。世界最古のボローニャ大学があり、ダンテ、コペルニクスなどの偉人を輩出しています。人口は39万の地方都市です。第二次世界大戦で荒廃した街が、どのようにしてイタリアでも指折りの裕福な都市になったのかが、読みやすく具体的なエピソードを交え著者のてだれの文章で次々に紹介されます。

何より心を打たれるのは、市民が協力して産業を創り育て、若者が生き活きと地元で働いているということです。ボローニャはイタリアーの精密機械の産地となり、古い映画のフィルムを修復してDVDにするチネチカという企業を世界一の映像センターに育てています。また、紅茶のティーバッグ、薬品などの自動包装機械も世界の中心と誇ります。わが岩国市の学ぶことがたくさん書いてあります。

何よりも街の繁栄と充実を中央政府と五分で対面しながら市民の協力で築き上げる人々の姿は感動的です

- (小野 泰一郎)



自立とは

[自立したまちづくり]を考えるときに[自立とは何だろう]ということを考えるようになった。日本はアメリカに、地方は国に、個人は顔の見えない他人に頼りすぎているのではなからうか。例えば、朝起きて朝食を摂る。パンの原料の小麦粉の自給率は14%、味噌汁に入っている豆腐の原料の大豆は5%である。アメリカは余剰作物のはけ口として、小麦や大豆を輸出しているのだと聞く。いつまでもこうして、食物を海外からの輸入に頼っていることが、いかに危険かということをもっと多くの人々がひしひしと感じ始めている。食という観点から自立を考えたとき、それが出来るのは私たち地方だと思う。

農とは無縁だった私が、食と農について考え出した今日この頃。まずは自然農での野菜作りを仲間と始めた。

- (ひとみん)





第1回 草の根ネットひらめきわーく開催 真剣で活況だった勉強会

最初に「ひらめきわーく」について説明します。会報第1号と一緒に「アンケートのお願い」として6つの提言に対しての皆様のご意見を記入して回答をお願いするとともに「6提言に関する勉強会」の開催についてお知らせしました。この勉強会の名称を「草の根ネットひらめきわーく」としました。この名称は斬新でインパクトを与える期待を込めて、意識の目覚めを連想させる「ひらめき」という言葉に仕事・働き・活動を意味するワーク、また「草の根ネットワーク」のワークをかけて、あえてひらがなで「ひらめきわーく」にしました。

簡単にいえば草の根ネットの勉強会・学習会ということです。

今回のひらめきわーくの内容は、アンケートに掲げた次の6つの提言項目にしました。

- 米軍基地に依存せず、錦帯橋などの文化・自然・環境を大切にしたい自立した町づくり。
- 子育て支援や教育などの課題と高齢者や障害者の福祉など、人を大切にすること。
- 食糧自給・周辺過疎地域・地産地消・農林水産業等の問題点と対策。
- 空母艦載機の岩国基地移駐。
- 愛宕山住宅用地への米軍住宅建設。
- 民間空港建設。

ひらめきわーく 会議録を政策委員会が作っております。
ご入用の方は事務局にご連絡ください

以下、ひらめきわーく開催時の様子と感想を書き加えます。

10月5日と12日の二日に分けて、岩国福祉会館と市民館で「第1回草の根ネットひらめきわーく」を開催しました。アンケート回答会員で勉強会参加希望者にご案内したところ、5日70人、12日60人の出席がありました。アドバイザーに野口 進・姫野敦子市議を迎え、5日は特別に平岡秀夫衆議院議員の出席を得て、もちろん井原勝介代表も加わり活発な意見交換と適切な情報やアドバイスを受けました。

午後1時半から4時半までの間に3つの提言テーマを消化するという日程でしたので、進行担当の政策委員は時間を気にしつつ、時には発言を抑えたりしながらなんとか無事に終えた感じでした。出席者はみんな岩国の将来にも目を向け、テーマ項目に関する問題点や対応策、また行政面での国や県や市に対する要望、さらに市民としてどうあるべきかの意識問題にまで、真剣に率直に、鋭い意見をぶつけ合いました。そうした中で、結論を出すことができないもどかしさを感じながらも、みんな岩国を愛しているのだという心情も感じ取りました。アドバイザー諸氏からは、決してあきらめないで頑張っていこうというメッセージをいただきました。とにかく「主役は我々市民なのだ」という気持ちを持って歩まなければならないという意識を共有できたことが大変うれしく、印象深くここに残っています。

会 員 の 声

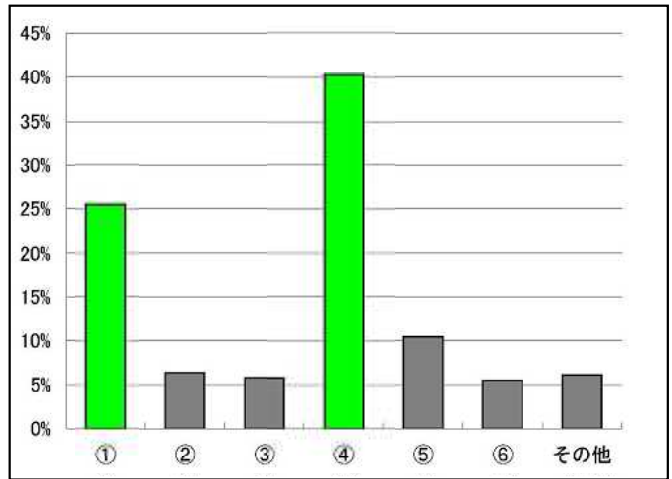
意外な知名度（もはや全国区？）

今年、意外な場所で意外な人から、井原さんの名前を聞くことが2度あった。
3月末に大阪に行った時、梅田の地下街にある散髪屋で、小生の頭を刈りながら店主がどこから来たのかと聞くので「山口県の岩国市というところです」と言うと、店主は「この間の選挙は惜しかったなあ。あの井原さんという人はなかなかの人でんなあ」と言った。不思議に同じことが先日もあった。11月の初旬に、娘の結婚式に出席するため上京し、都内のある高級ホテルの中にある散髪屋で女性の理容師が、どこから来たのかと聞き、同じように岩国からと答えると「ああ、あの井原さんという有名な市長さんがおられるところですね」と言った。この散髪屋は場所柄、鳩山氏や細川氏、安倍氏などの政治家がよく利用するとのことであった。因みに料金は、80分で1万5千円であった。



- (川本 典康)

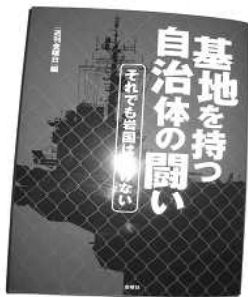
6つの提言に対する関心度



ご案内

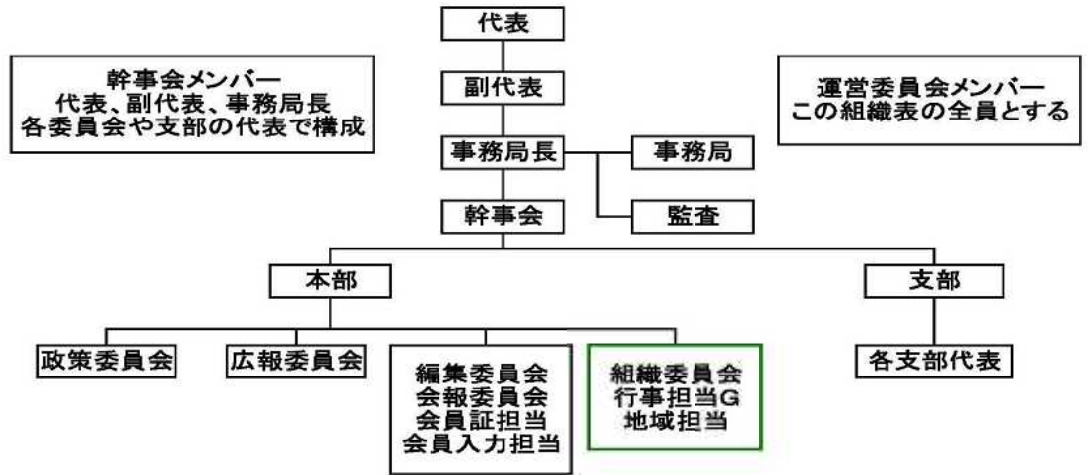
「それでも岩国は負けない」
(週刊金曜日編) 出版!

井原代表のインタビューが載っています
(聞き手 佐高 信)



委員会 活動報告

各委員会はこの様な構成となっています



組織委員会の活動

井原代表をまじえての地区集会在各地で始まりました。
 9月は 灘地区、今津・山手地区、 東地区 (2ヶ所)
 10月は西岩国地区 (4ヶ所) 川下地区 (2ヶ所)
 11月は愛宕地区 (3ヶ所)、 平田地区 (2ヶ所) です。
 組織拡大を目指しての地区集会で代表の話を聞き、意見交換で意識を高めた、1時間半でした。



事務局からのお知らせ

岩国から全国へ情報発信!

政治評論家森田実さんの ホームページに
井原代表のコーナー 「風だより岩国」ができました。

集会を希望される方は
事務局まで御連絡ください。
人数にこだわりません

会員登録 更新手続きのお知らせ

会員の有効期間は今年の12月末までです。別紙「会員申込書」による更新の手続きを、お願い致します。
記入の際には注意事項をお読み下さい。

会費は、年間 (1月から12月まで) 1人 1,000円、未成年は無料です。

*草の根ネットワーク岩国のホームページ又はメールによる更新手続きもできます。

詳細はホームページをご覧ください

2009年 『草の根ネット新春市民討論会』 (仮称) ご案内

日時 平成21年2月22日 (日) 午後2時より

場所 岩国市民会館 大ホール

多数ご参加ください

乞う御期待



編集 後記

人の考えや、思いは常に変化し時として判断を誤っていた事に気がつく事がある。
そんな変化や、温度差の違いをも、飲み込めるキャパシティが求められているような気がする。

この秋、筑紫哲也が逝った。時代の座標軸と言われ、間口が広く、清濁合わせ飲むような 人柄、思想に大いに共鳴していた。今岩国に『筑紫哲也』的リーダーが求められているかも。

